

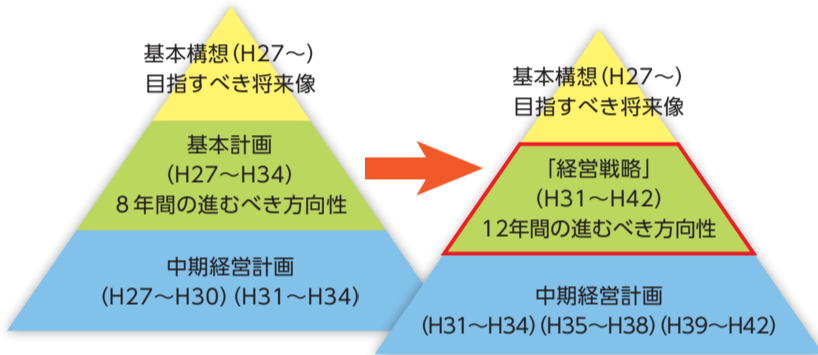
## 「静岡市上下水道事業経営戦略」を策定しました。

計画期間 **平成31年度→平成42年度**  
(2019年度→2030年度)

### 策定の趣旨

わが国の上下水道においては、高度経済成長期以降に急速に整備された施設が大量に更新時期を迎えつつある一方で、人口減少や節水型生活様式の定着などにより収入減等が見込まれるなど、事業を取り巻く経営環境は厳しさを増しています。

#### しずおか水ビジョンと経営戦略の位置付け



こうした状況の中、将来にわたって上下水道サービスを安定的に持続させるために、計画期間を10年以上とする中長期的な経営戦略を策定し、それに基づき事業を進めることで経営基盤を強化するよう、国は要請しています。経営戦略には、アセットマネジメント\*などを活用して上下水道の管や施設について中長期的な更新需要を適切に把握した上で、「投資計画」と、それに必要な財源を計画的かつ適切に確保するための「財政計画」を、均衡した形で策定することが求められています。

そこで、本市は、平成27年3月に策定した「しずおか水ビジョン」に掲げる政策目標の実現をさらに確かなものとするために、中期的な基本計画を改定し、今後12年間(平成31年度(2019年度)～平成42年度(2030年度))の進むべき方向性を「静岡市上下水道事業経営戦略」(以下、「経営戦略」という。)として策定しました。

\*アセットマネジメント：資産の状態・健全度を適正に評価し、中長期的な視点で資産の状態を予測した上で、計画的かつ効果的な管理を行うことです。

### 現状

水道事業では、高度経済成長期以降に管や施設の整備拡充を行うとともに、市町合併に伴う南部ルート・北部ルートなどの漏水対策事業を推進し、更に簡易水道の経営統合などを行ってきました。

下水道事業では、水道の普及に伴い汚水量も増加したことから、管や施設を整備拡充するとともに、近年の大雨に対応するため、雨水幹線の整備や、雨水貯留管の築造などの浸水対策事業も行ってきました。

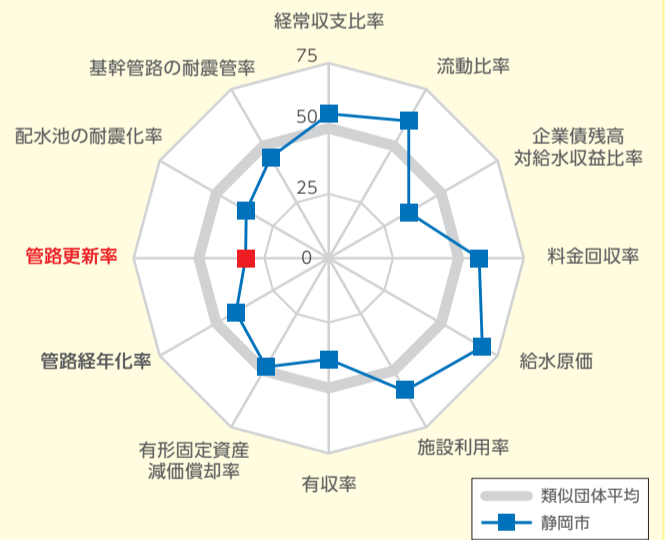
### 課題

水道事業では、水道管の老朽化が進んでいますが、「管路更新率」(1年間のうち、古い管を新しい管に取り替えるペース)は、類似団体(政令指定都市等)の平均約1.2パーセントを大きく下回る約0.3パーセントであり、このままのペースでは、市内全ての水道管総延長約2,600キロメートルの更新に約200年を要してしまいます。老朽化は、漏水事故などの原因となるため、速やかな対応が必要です。

下水道事業については、昭和50年代から大量に整備した下水道管が老朽化するため、近い将来その下水道管の更新が増加していく見込みです。

今後、このように老朽化した大量の水道管や下水道管を更新するためには、多額の費用を要しますが、給水量・汚水量の減少により料金・使用料収入が減少するため、更新費用の確保が難しくなると予測します。

平成28年度 水道事業経営分析(イメージ図)



注) 各指標は、外側に広がるほど良好な値を示しています。

### 目指すべき方向性

水道に期待されるものは、安心・安全でおいしい水が、必要な量、いつでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に供給されることです。

そのため、水道管や水道施設の健全度が低下しないよう計画的に維持・更新していきます。

下水道に期待されるものは、汚れた水を衛生的に処理・再生して健全な水循環を創出するとともに、総合的な浸水対策を推進することです。

今後も、**健全で強靱な上下水道を、子どもたち、孫たちの世代に引き継ぎ、現在のサービス水準を維持・向上していく、持続可能な上下水道事業の実現を目指します。**

### 実施している経費削減策

- ◇料金収納等窓口業務の包括民間委託分野の拡大
- ◇上下水道施設の運転管理業務などの民間委託業務の拡大
- ◇上下水道施設・設備の統廃合(ダウンサイジング)
- ◇上下水道施設・設備の小規模化や合理化(スペックダウン)
- ◇遊休資産の売却や貸付
- ◇自然エネルギーの活用による電気料金の削減
- ◇定期預金や債券運用による財源の確保

### 進捗管理

毎年度、附属機関である静岡市上下水道事業経営協議会において行政評価を行い、達成状況を検証するとともに、結果を公表し、PDCAサイクルに基づいて施策を推進していきます。



# 持続可能な上下水道事業を実現するためには、「投資」と「財源」を均衡させ、投資事業に必要な財源を確保することが重要になります。

## 水道編

### 投資・財政計画

計画期間の最終年となる平成42年度(2030年度)の水道事業のあるべき姿は、次を目標とします。

#### 1 投資について

今後、12年間に要する事業費は、総額約882億円、単年度当たり約74億円と試算しました。このうち主なものは、管・施設の老朽化対策に約38億円、地震対策に約29億円などです。

目標1	老朽化した水道管の解消	想定使用年数超過管路200km更新	平成42年度 (2030年度)
目標2	水道管の更新・耐震化	管路更新率年1.2%(31km)更新	
目標3	水道施設の耐震化	重要な14施設の耐震化完了	



**老朽化した水道管の内部**  
古い管は、漏水事故の原因にもなります。

#### 2 財源について

民間のノウハウ等の活用、施設・設備の統廃合(ダウンサイジング)などによる経費削減に努めます。

目標1	損益の目標	黒字経営の維持	平成42年度 (2030年度)
目標2	資金収支の目標	適正な補てん財源の確保	
目標3	企業債残高の目標	企業債残高を580億円以下に	

### 水道料金の改定

「投資の最適化」や「経営の効率化」を進めても、現行の料金体系では収入による財源が不足する場合、料金の見直しが必要となります。

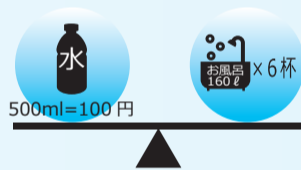
そこで、平成30年度以降の料金などの収入と維持管理などに要する支出を推計した結果、健全な経営の観点から、収支が赤字にならないよう平成32年度(2020年度)に15パーセント程度の料金改定を見込み、試算しています。その後の料金算定期間についても、収支バランスのとれた適切な料金設定を検討します。

#### Q 水道事業は、税金で運営しているんでしょ?

**A** 水道事業は、静岡市が経営する地方公営企業です。事業運営に必要なお金は、税金ではなく、お客さまからいただく水道料金で運営しています。そのため、これまでも4年に1度、料金を見直しています。

#### Q 普段、家庭で使っている水道水って、安い?高い?

**A** 一般的なご家庭の水道料金は、1か月20,000リットル使って、約2,200円です。計算すると、お風呂約6杯分(約1,000リットル)の水道水が、約100円ということになります。これは、500ミリリットル入り水のペットボトル1本を買うのと変わらないお値段ということです。



#### Q 水道管を替えるのに、なぜ時間とお金がかかるの?

**A** 静岡市内全体の水道管の長さは、約2,600キロメートルで、北海道から沖縄に至る距離に相当します。管を新しくするのに、1キロメートルあたり、平均1.6億円かかります。今後起きるといわれている大きな地震による被害を最小限に食い止めるために、お金はかかりますが、なるべく早く水道管を新しくするよう取り組んでいます。

## 下水道編

### 投資・財政計画

計画期間の最終年となる平成42年度(2030年度)の下水道事業のあるべき姿は、次を目標とします。

#### 1 投資について

今後、12年間に要する事業費は、アセットマネジメント手法を取り入れ、改築や浸水、地震対策など事業間で投資額を調整し、年間事業費を約110億円に平準化します。このうち主なものは、管・施設の老朽化対策に約50億円、地震対策に約20億円、雨水幹線・ポンプ場の整備に約30億円などです。

目標1	アセットマネジメント手法を用いた事業計画	年間事業費の平準化	平成42年度 (2030年度)
目標2	下水道施設の計画的な改築	管路・施設の健全度を現状維持	

#### 2 財源について

下水道使用料の収入や、一般会計からの繰入金・国庫補助金の確保、計画的な企業債の借入・償還に努めます。

目標1	損益の目標	黒字経営の維持	平成42年度 (2030年度)
目標2	資金収支の目標	適正な補てん財源の確保	
目標3	企業債残高の目標	企業債残高を1,350億円以下に	



**老朽化した下水道管の内部**  
クラック(ひび割れ)や破損は、道路陥没事故の原因にもなります。

### 下水道使用料について

平成31年度からの4年間は、下水道使用料の改定は予定していません(消費税によるものを除く。)。その後の使用料算定期間についても、収支バランスのとれた適切な使用料設定を検討します。

「経営戦略」の策定にあたっては、静岡市上下水道事業経営協議会の開催やパブリックコメントなどの実施により、市民意見を伺いました。また、「経営戦略」は、市ホームページや、上下水道局庁舎及び各区役所市政情報コーナーで閲覧できます。

詳しくは

静岡市上下水道事業経営戦略

検索